

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム【様式例】

学校番号：25009

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇「自ら学ぶ方法」「人と学び合う方法」の項目について肯定的な意見が多かった。自分の課題や目標をもって学習に取り組んでいることが考えられる。また、ICTの活用の幅が広がっている。</p> <p>◇「自分の『伸び』を実感して新たな目標をもつ」項目についても肯定的であり、自分の成長を自覚し、また、次へ生かそうとしている。</p> <p>◇「難しいことにも挑戦する意欲」の項目の中でも、「分かるまで努力する」「失敗を恐れないで挑戦する」ということをよく考えられている。</p>
	<p>◇相互承認の項目が低く、子ども一人一人が自分のよさや可能性に気付いていくことが課題である。</p> <p>◇子どもが自分の考えを表現し合う機会の創出とともに、他者の考えに触れ、自分の考えを広げたり深めたりする協働的な学びを充実させていく必要がある。</p> <p>◇子どもたちを支える教育環境の充実では、子どもが思いや願い、悩みや困りを大人に伝えやすい体制を一層整えていく必要がある。</p>
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p>	
<p>◇自分に対して肯定的に見ていない様子があり、自分の意見に自信がもてず発信に踏み切れない子がいる。また、家の人や地域の方々から認められたり、支えられたりしていると感じている子が少ない傾向がある。子ども一人一人が自分のよさや可能性に気付いていくことが課題であることから、相互承認の感度を高めるため、相互理解を生み出す対話の場の創出が必要である。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

協働的な学びを充実 自己肯定感を高める 表現できる力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研究副主題「子どもが自ら考え、自ら表現する授業」を具現化・実践化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習（活動・操作）を取り入れた学習理論に基づく授業改善 ・子どもの思考を高める多様な学習スタイルの推進 ・自己評価と相互評価を取り入れた指導と評価の工夫 ・習熟度別学習の充実やインクルーシブ支援などを活用した個に応じた指導の充実 <p>(2) 見通しをもった学級経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の自主的自発的な活動を通して、課題を見付け、学ぼうとする姿勢を認め、進めていけるよう関わっていく。 	<p>①よりよい地域を目指すための取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CS導入を視野に小中一貫教育推進においてパートナー校と連携し、中学校をリーダーとした共通した取組の実践。 <p>②よりよい学校にしていくための委員会活動等での取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校で取り組む挨拶当番の実施 <p>③よりよい学級にするための学級活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の問題を全員で考え、話し合う学級会の実施 ・係活動を中心とした、よりよい関わりができるような計画
<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について</p>		
<p>◇タブレット端末等のICT機器の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習等「学びの日常化・習慣化」のすすめ（読書・宿題・タブレット端末による基礎・基本的内容の自己習熟） <p>◇よりよい学校にしていくための委員会活動等での取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活の振り返り（googleフォームで実施・共有） 		

<本プログラムの実行に向けて>



